

# 学級経営について 総括

令和7年2月25日（火）

研究主任 廣瀬

## 1. 令和6年度の総括

今年度も、H27年度から積み上げてきた取組（フリートーク・ほめ言葉のシャワー・価値語・成長ノート）を継続して取り組み、校内研究において、取り組み状況の確認や共有、改善策等を協議することができた。

また、「自己他者肯定感テスト」における「自己・他者肯定群」に位置する児童が年間2回平均81%と、検証指標の目標を達成することはできなかった。しかし、年間を通して、各学級担任が、取組の意義を確認したり、教室掲示を見合って日頃実践している上での工夫について対話したりすることで、取り組み方を見直すことができたと考える。今後も検証指標を目安として、達成を目指していくが、児童の安全・安心な学校生活や仲間づくりのために、対話を中心とした取組の改善に努める。

## 2. 5点セット

校内研究テーマ	グローバルリーダーに求められる確かな学力の育成 ～情報活用能力の育成～（2年次）
重点目標	豊かなコミュニケーション活動の土台を育む人間関係の醸成
達成指標	（1）「自己・他者肯定感テスト」において、「自己・他者肯定群」に位置する児童が全体の82%以上 →6月の結果は、平均が81% →年間2回の平均が81%
重点的取組	（1）4つの取組のブラッシュアップ及び相互に関連付けた取り組み ①フリートーク ②ほめ言葉のシャワー ③成長ノート ④価値語
取組指標	（1）4月の研修で、4つの取組を相互に関連付ける取り組みについて、昨年度までの取り組み例を伝え合ったり、昨年度までの課題を確認したりして、今年度の取り組み方について共通理解する。7月の研修で、学年ごとに7月までの成果と課題をまとめ、後期に向けてブラッシュアップする。 ①4月にフリートーク公開・事後研を行い、フリートークのねらいや取り組み方について、共通理解をする。研修にて各学級の取組について振り返り、改善していく。 →フリートークの公開・事後研、現状報告や困りの出し合い、学年に応じた目指す姿や価値付けの方向性確認等を行った。 →国語「A話すこと・聞くこと」の指導・評価の一部として位置付けることについて、共通理解を図った。 →7月に、「えがお・アセスアンケート」をもとに各学級の気になる児童について分析し、挙げられた児童への支援という目的のもとブラッシュアップを図った。 →12月に、全校の各教室の教室掲示を見て対話しながら、2周目のフリートークの取り組み方や、フリートークの目的等について、各学年で再確認する時間を設定した。

	<p>②ほめ言葉のシャワーについて、6月の研修でねらいや取り組み方について共通理解し、6月以降に実施していく。後期の研修で、各学級での取り組み方（1巡目・2巡目のやり方、板書の仕方、教室掲示等）を持ち寄ったり課題や困りを出し合ったりし、改善していく。</p> <p>→6月に、ほめ言葉のシャワーの公開・事後研を行い、ねらいや取り組み方、学級経営との関連のさせ方、困り等についてグループで情報共有することができた。</p> <p>→7月に、「えがお・アセスアンケート」をもとに各学級の気になる児童について分析し、挙げられた児童への支援という目的のもとブラッシュアップを図った。</p> <p>→12月に、全校の各教室の教室掲示を見て対話しながら、2周目のほめ言葉のシャワーの取り組み方や、ほめ言葉のシャワーの目的等について、各学年再確認する時間を設定した。</p> <p>③成長ノートは、4月の研修で共通理解をし、各学級で実施する。主に行事や節目の時に、自分の取組を振り返り、付けた力を自覚できるようにしたり、次の目標を持たせたりする。目標に向け、自分の達成具合が分かるように、継続して書かせる。4月の研修で、気になる児童や変容の見られる児童の成長ノートを持ちより、「いつ、どんな内容で書かせたか、それをどう活用したか」など、意見交流し、後期の取り組みにつなげていく。</p> <p>→7月に、「えがお・アセスアンケート」をもとに各学級の気になる児童について分析し、挙げられた児童への支援という目的のもとブラッシュアップを図った。</p> <p>→後期は、学期や学年のふり返りや行事を通した成長について書いたことを、キャリアパスポートにつなげる。</p> <p>→12月に、成長ノートの取り組み方について他学年の取組を参考にしたり、各学年で取り組みの見直しを図ったりした。</p> <p>④価値語は、4月の研修で共通理解をし、各学級で実施する。7月の研修で教室掲示を持ちより、「どのようなつくり方や位置づけ方が効果的か」などについて意見交流し、後期の取組につなげていく。</p> <p>→7月に、「えがお・アセスアンケート」をもとに各学級の気になる児童について分析し、挙げられた児童への支援という目的のもとブラッシュアップを図った。</p> <p>→後期は、校内研修の中で学級経営に関する情報交流を適宜行い、常時的なブラッシュアップを図り、日常の実践につなげる。</p> <p>→12月に、全校の各教室の教室掲示を見て対話しながら、学年部で取組について情報共有をする時間を設定した。各クラスや、学年全体の価値語の取り組み方の見直しを図った。</p>
外部評価	<p>学校評議委員や指導主事等を年間2回程度招聘し、状況を確認及び評価していただく</p> <p>→学校評議員による視察・観察により、本校全体の学級指導の在り方について指導・助言を頂いた。</p>

	<p>「子どもたちが、なるべく自発的に発言するような取り組みができています。」</p> <p>「リーダーが育つことも大切だが、フォロワーが育つことも大切。発言が苦手な友達を支えたり、やる気を出させたり、切り替えさせたりする子がいる。」</p> <p>「目に見えやすい積極的なリーダーを育てるだけではない。消極的でも、陰で支える調整力、寛容性を持って理解する力、共感力や傾聴力を持った人が同じように評価されていくことが大切。」等の言葉を頂いた。後期も引き続き、このような機会を活用していく。</p> <p>→1月の特別活動授業公開において、文部科学省の和久井調査官に学級経営“四つの取組”を見ていただき、評価を受けた。</p> <p>→2月に学校評議員による視察・観察を通して取り組みの評価を受けた。</p>
--	---

### 3. 4つの取組の年間計画

相互に関連付けながら取り組んでいく  
(行事・集会での話・学級活動等)

	フリートーク (朝の会)	ほめ言葉のシャワー (朝の会)	成長ノート (キャリアパスポート)	価値語
4月	研修で共通理解 実施		研修で共通理解 実施	研修で共通理解 実施
5月	学年内で互いに 見合う			
6月		研修で共通理解 実施		
7月		一巡目		
8月	ブラッシュアップ		ブラッシュアップ	ブラッシュアップ
9月				
10月				
11月				
12月	研修：各取組の進捗状況の確認・成果・課題			
1月				
2月		二巡目		
3月				

# 県の改善の重点を受けた授業研究について 総括

令和7年2月25日（火）

研究主任 廣瀬

## 2. 令和6年度の総括

今年度も、令和5年度に引き続き、全ての教科・領域において授業を行い、県内外の学校へ周知・公開することができた。公立学校にモデルを示したり授業作りについて一緒に考えたりする場を設けることができ、本校の使命を果たすことができたと考える。

また、「授業観察シート」の平均は検証指標の目標を概ね達成することができ、本校職員の授業力を高めることに資することができた。

## 2. 5点セット

校内研究テーマ	グローバルリーダーに求められる確かな学力の育成 ～情報活用能力の育成～（2年次）
重点目標	県による「各教科の改善の重点」を具現化した各教科の授業の構築と授業公開
達成指標	<p>① 令和6年度小中学校教育課程研究協議会（12月）にて、レポート提出及び本校作成の単元及び授業プランを、授業公開等を通じて発信</p> <p>→5～6月の間に、県の改善の重点を受けた公開授業で13本授業（算数、道徳、外国語、図画工作、体育、国語、音楽、生活、社会、家庭、理科、特別活動、総合的な学習の時間）を実施し、延べ88名の参加者に授業を公開した。</p> <p>→11月に外国語セミナーを開催した。県内外から80名の参加があり、授業公開（45分授業11本・モジュール授業6本）及び事後研、直山教授の講義を行った。その様子は、当日Zoom配信で11名、後日動画配信で60名に向けて発信することができた。</p> <p>② 指導教諭等による評価の平均が3.0以上</p> <p>→4～7月の授業観察の平均は3.04点</p> <p>→4～2月の授業観察の平均は3.08点</p>
重点的取組	<p>① 県による「各教科の改善の重点」の分析、また本校の課題及び具体的な取組を明確にし、それを具現化した授業づくりと授業公開を行う。</p> <p>→教科部ごとに、県による「各教科の改善の重点」を本校の児童の実態をもとに分析し、授業づくりと授業公開を行った。</p> <p>→11月の外国語セミナーにおける授業公開・事後研を通じて、本校作成の単元及び授業プランを参加者に発信することができた。</p> <p>→5～6月の授業公開の授業と事後研のまとめをHPで公開をした。11月の外国語セミナーの授業の様子・事後研・直山教授による講義について、申込者に配信を行った。</p> <p>② 指導教諭等による授業参観及び、指導教諭等による指導・助言をもとに授業改善を行う。</p> <p>→前期の間に1人1回以上実施。1月までに第2回目を実施する予定。</p> <p>→指導教諭による授業観察を年間36回（1人あたり2回）実施。</p>
取組指標	<p>① 県による「各教科の改善の重点」を受け、教科ごとに再度分析しなおし、本校における現状と課題、及び改善を図るための具体的な取り組みについて、各教科で再検討し完成させる。それをもとに、日常的に授業実践していくよ</p>

うにする。

→県による「各教科の改善の重点」を受け、教科ごとに再度分析し直し、本校における現状と課題、及び改善を図るための具体的な取り組みについて「提案文書」にまとめた。後期は授業公開で受けた指導や振り返り、修正指導案等を参考に、日常の授業実践に繋いでいく。

→公開した授業について、修正指導案を作成して授業改善に生かしたり、過去の実践や日頃の困りから「学び合い」の授業及び取組で力量を高めたり、大学教員と継続的に連携をとって授業研究を行ったりと、授業改善を図ることができた。

② 5月～6月に、全教科計13本を7日間の授業公開で実施する。外国語においては、11月に「外国語セミナー」を実施する。

→県の改善の重点を受けた公開授業の中で、全教科について公開授業・事後研を行った。

→県の改善の重点を受けた公開授業の事前研は、教科部、学年部、研究主任等で放課後に随時行った。後期も、授業観察や学び合いの授業を通して、授業改善に向けて引き続き行っていく。

→11月に外国語セミナーを実施した。職員全体で今年度の方向性についての確認を1回、学年部ごとの事前研を2回、その他必要に応じて指導案審議を行い、外国語活動・外国語科における授業実践の力を高めることができた。

③ フォローアップ研修で公開する5教科（算数科、体育科、音楽科、社会科、家庭科）の授業動画撮影を行い、県下の公立学校へ周知・公開していく。

→5～6月に算数科、体育科、音楽科、社会科、家庭科の5教科は、授業公開の際、大分県教育センターによる動画撮影も行った。動画は9月から実施される大分県教育センター主催のフォローアップ研修にて活用される。成果については、研修直後のアンケートと、事後の活用に関するアンケートにて検証する予定である。

→フォローアップ研修の研修後アンケートについて、

「授業について自分で振り返ることも大切だが、比較対象があることでより鮮明に振り返られて充実感を覚えた。」

「ねらいを明確にしたペア活動相談タイム等、日頃悩んでいたところが見られて本当に有意義だった。」

「発問・流し方・示し方等、レベルの高い授業を見ることができ、自分の授業を変える刺激をいただいた。」

「自分の授業では、付けたい力やねらいが明確になっていなかったことや、効果的な言語活動が単元を貫いて設定できていないと実感した。」

等、授業公開に対して日常の実践に繋がる肯定的な意見が聞かれた。

④授業公開後は全体・教科ごとで事後検討会（指定討論形式）を行うとともに、指導教諭等は「授業観察シート」に沿って評価を行う。指導教諭等による指導・助言をもとに授業改善に生かしていく。

→授業公開後は各教科で事後検討会（指定討論形式）を行った。一般参加者を含めた討議や、指導主事・学部協力者による指導・助言により、有意義な指定討論会になった。また、1～2教科同時公開にしたことで、昨年度よりも同じ授業を観察できた職員が多く、多面的に授業の振り返りができた。

	→11月の外国語セミナーにおいても、事前授業において授業観察シートを用いて評価を行ったり、事後研究会を実施して参加者の方から意見をいただいたりし、授業改善を行うことができた。
外部評価	<p>学校評議委員や指導主事等（県教委義務教育課・大分教育事務所）を年間8回程度招聘し、状況を確認及び評価していただく</p> <p>→学校評議員に授業を見ていただき、指導・助言を受けた。</p> <p>→授業公開で指導主事14名(17回)に授業を見ていただき、事後研究会や講義で指導・助言を受けた。</p> <p>→大分県教育委員会友永指導主事を年間4回招聘し、生活科・総合的な学習の指導の時間の単元づくりや指導の在り方について、指導・助言をいただいた。</p> <p>→大分県幼児教育センター武津スーパーバイザーを招聘し、架け橋期の充実に向けての指導をいただいた。</p> <p>→学校評議員より3回指導を受けた。</p>

### 3. 研修計画

日時	内容	
4月3日	校内研究全体計画	今年度の授業研究について 新大分SD理論研修 県の重要課題について、具体説明
5月10日	算数・道徳	新大分SD授業公開・事後研 フォローアップ研修動画撮影（算数）
5月17日	外国語	新大分SD授業公開・事後研
5月24日	体育・図工	新大分SD授業公開・事後研 フォローアップ研修動画撮影（体育）
5月30日	国語・音楽	新大分SD授業公開・事後研 フォローアップ研修動画撮影（音楽）
6月7日	社会・生活	新大分SD授業公開・事後研 フォローアップ研修動画撮影（社会）
6月14日	理科・家庭	新大分SD授業公開・事後研 フォローアップ研修動画撮影（家庭）
6月21日	特別活動・総合的な学習の時間	新大分SD授業公開・事後研
11月30日	外国語セミナー	新大分SD授業公開・事後研
12月17日	人権教育	新大分SD授業公開
1月24日	特別活動授業公開	新大分SD授業公開
1月28日	生活・総合	新大分SD授業公開

# 今年度の外国語活動・外国語科について【総括】

R7.2.25

外国語担当 伊東

## 1. 総括

一年を通して、本校の外国語の取組や今年度の方向性について共通理解をする機会を設け、取組を続けてきた。4～8月の校内研修やスキルアップ研修、公開授業の中で、これまでの取組である『「漆塗り」の授業展開の在り方(単元構成)」「中間指導」など、これまでの本校の取組について共通理解を図る場を設定し、各学年で取組を進めた。7月の校内研修においては、「単元ゴールにつながる必然性ある英語表現等の活用」の在り方について研修を行った。11月には、外国語セミナーを行い、県内外の先生方を対象に全学年が授業公開を行うことができた。直山教授と二宮指導主事を招聘することで、事後研において、全学年が指導・講評をいただくことができた。公開授業に加え、事後研の在り方や直山教授の講演などについて概ね好評な意見を得ることができた。直山教授からは、単元構想や授業展開について一定の評価をいただいたが、次年度に向け、「目的意識」について、ご指導いただいた。

今後、本校の外国語教育について研修などを通して教員間で共通理解を図るとともに、日々の授業を通して授業改善に取り組んでいく。

## 2. 5点セット

校内研究テーマ	グローバルリーダーに求められる確かな学力の育成 ～情報活用能力の育成～
重点目標	既存の知識や新たに習得した情報を活用して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育む授業の推進
達成指標	① 指導教諭による評価(4段階)が、1、2年目の教諭 2.7以上、3年目以上の教諭 3.0以上 →18名が観察授業実施。1、2年目の教諭が 2.92、3年目以上の教諭が 3.26 ② 授業参観後のアンケートで、参観者の自校での活用に関する肯定的な回答の割合が6割以上 →授業参観後のアンケートで、参観者の自校での活用に関する肯定的な回答の割合 95%
重点的取組	① 課題解決へ向けた授業づくり・互見授業の実施 ② 公立校への授業公開
取組指標	① について ・4～7月の校内研修において、これまで取り組んできた「漆塗りの授業の展開」、「中間指導」「必然性のある単元構想(思考・判断・表現、主体的な学習に取り組む態度につながる目的・場面・状況の設定)」等について共通理解を図り、外国語部と学年部が連携しながら授業づくりを行う。また、昨年度指導を受けた項目「単元ゴールにつながる必然性ある英語表現等の活用」について、実際の授業を通して課題解決に取り組む。 →4月の校内研修において、上記の点について共通理解を図ることができた。また、7月に外国語セミナーに向けての研修を行い、昨年度までの経緯や今年度の課題について共通理解を図ることができた。7月の校内研修においては、「単元ゴールにつながる必然性ある英語表現等の活用」の在り方について研修を行った。 ・外国語部と各学年部が連携し、指導案作り、授業づくりを行う。 →必要に応じて一緒に授業づくりをしたり、事後の振り返りをしたりすることはできた。 ・前期までに、指導教諭・研究主任・外国語担当・学年部による互見授業を学年1名以上設定し、11月の外国語セミナーでの実践に繋げる。1月までに観察授業を全員行う。 →指導教諭による評価(4段階)は1、2年目の教諭 2.92、3年目以上の教諭 3.26だった。 ② について ・5月の授業公開では、外国語部が校内だけでなく地域の学校等に向け「単元ゴールにつながる必然性ある英語表現等の活用」に関する授業を公開し、共通理解を図る。

	<p>→5月17日の授業公開では、丸田指導主事に指導・講評をいただき、主に「話すことにおける思・判・表の指導と評価」について共通理解を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語セミナー(11月30日)において、授業公開と事後研究会を行う(指導主事等や中学校に声をかける)。また、ホームページにて動画配信を行う。</li> <li>→4年は二宮指導主事に、1～3年、5、6年は直山教授に指導・講評をいただいた。動画配信も指導教諭と研究主任が実施した。</li> <li>・要請があれば、他校からの視察日を設定し、積極的に視察を受け入れたり、外部講師として出前研修等を行ったりする。</li> <li>→7月26日に外国語担当片山が大分市立大在小学校にて外部講師として研修を行った。</li> </ul>
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月の授業公開においては、指導主事を招聘し、11月30日(土)に開催の外国語セミナーにおいて、直山木綿子教授や指導主事を招聘し、本校の取組を評価していただく。</li> <li>→5月17日の授業公開では、丸田指導主事に指導・講評をいただき、主に「話すことにおける思・判・表の指導と評価」について共通理解を図ることができた。</li> <li>→11月30日(土)に開催の外国語セミナーにおいて、直山教授からは、昨年度指導を受けた項目「単元ゴールにつながる必然性ある英語表現等の活用」に関して、一定の評価をいただいた。</li> <li>・附属中入試後の1月に6年生のみ外部評価を行い、本校の6年間の実践の成果を図る。(昨年度から英検ESGを行っている)</li> <li>→12月4日、6年生が外部評価ESG(無料)を行った。団体総合平均スコアは513/550であった。技能別平均は、リスニング250/275、リーディング263/275であった。英検5級程度の技能を持つ児童の割合は、94%だった。</li> <li>・授業公開と外国語セミナーの事後アンケートを行う。</li> <li>→授業参観後のアンケートで、参観者の自校での活用に関する肯定的な回答の割合95%</li> </ul>

### 3. 研修計画

○研修時には、年間5回、10分程度の外国語スキルアップ研修を行う。

→校内研修において、1回15分程度の外国語スキルアップ研修を計5回行った。

○5月に外国語部による提案授業を設定し、本校の外国語授業についてイメージを掴めるようにする。

→5月17日に外国語部が授業を行い、上記の点について共通理解することができた。

○外国語セミナー(11月30日)において、事前授業や授業公開を実施する。(指導主事等や中学校に声をかける。)

→外国語セミナー(11月30日)について、直山教授と二宮指導主事を招聘した。

### 4. 小中連携外国語事務局会について

・事務局会や互見授業・事後検討会を、年間を通して随時行っていく。

→1月22日に附属中の英語科の授業を参観した。

・3月に第2回小中連携外国語事務局会を行う予定。